

MySQL 5.1.54 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加または変更:

- **IBMDB2I** ストレージエンジンのサポートが削除された (Bug #58079)。
- **pstack** ライブラリが機能していなかったため、*configure* の `--with-pstack` オプションと共に削除された。*mysqld* の `--enable-pstack` オプションは廃止され、MySQL 5.5 では削除される (Bug #57210)。

修正されたバグ:

- **パフォーマンス: InnoDB ストレージエンジン:** InnoDB テーブルに対して複数の **ANALYZE TABLE** または **SHOW TABLE STATUS** ステートメントが同時に実行された場合の同時並行性が改善された (Bug #53046)。
- **InnoDB ストレージエンジン:** **ROW_FORMAT=COMPRESSED** または **ROW_FORMAT=DYNAMIC** で作成された InnoDB テーブルにおいて、**READ UNCOMMITTED** アイソレーションレベルを使用したクエリを実行する際に、オフページストレージを利用する **BLOB** などの大きなカラムが同時に挿入された場合、サーバが表明違反で停止する可能性があった (Bug #57799)。
- **InnoDB ストレージエンジン:** 既存の InnoDB テーブルが、**ALTER TABLE** ステートメント中の **KEY_BLOCK_SIZE** 句によって暗黙的に **ROW_FORMAT=COMPRESSED** に変更される可能性があった。現在は、**ALTER TABLE** ステートメントに **ROW_FORMAT=COMPRESSED** 句が明示的に指定されている場合のみ、行フォーマットが COMPRESSED に変更される。

デフォルトでないその他の有効な **ROW_FORMAT** パラメータと **KEY_BLOCK_SIZE** の両方が指定されている場合は、**ROW_FORMAT** パラメータが優先される。**KEY_BLOCK_SIZE** によって **ROW_FORMAT=COMPRESSED** が有効になるのは、**ROW_FORMAT** が **CREATE TABLE** ステートメントおよび **ALTER TABLE** ステートメントのいずれにも指定されていない場合か、**DEFAULT** と指定されている場合のみである。**KEY_BLOCK_SIZE** 句と **ROW_FORMAT** 句で矛盾が生じる場合、**innodb_strict_mode** がオフであれば **KEY_BLOCK_SIZE** は無視され、**innodb_strict_mode** がオンの場合は、ステートメントによってエラーが生じる (Bug #56632)。

- **InnoDB ストレージエンジン:** `innodb_strict_mode` の設定にかかわらず、InnoDB テーブルに対する `CREATE TABLE` ステートメントおよび `ALTER TABLE` ステートメントで `KEY_BLOCK_SIZE=0` 句が許可される。ゼロ値によって、`KEY_BLOCK_SIZE` テーブルパラメータが `ROW_FORMAT` パラメータに応じて、あらかじめ指定されていなかったようにデフォルト値にリセットされる。`ROW_FORMAT=COMPRESSED` の場合、デフォルト値は 8 である。それ以外の場合は、`KEY_BLOCK_SIZE` は使用されず、テーブルパラメータと共に保存されることもない。

この修正の結果、`innodb_strict_mode` が有効になっている時は `ROW_FORMAT=FIXED` は許可されない (Bug #56628)。

- **InnoDB ストレージエンジン:** InnoDB の起動メッセージにバッファプールの初期化の開始時間と終了時間、およびバッファプールの合計サイズが含まれるようになった (Bug #48026)。
- **パーティショニング:** `AUTO_INCREMENT` カラムで `INSERT ... ON DUPLICATE KEY UPDATE column = 0` ステートメントを実行すると、デバッグサーバがクラッシュしていた (Bug #57890)。
- **パーティショニング:** テーブルパーティションに対して操作を行う `ALTER TABLE` ステートメントが、影響を受けたテーブルのロック中に失敗した場合に、サーバがクラッシュする可能性があった (Bug #56172)。
- コンパイルに関するいくつかの問題が修正された (Bug #57992、Bug #57993、Bug #57994、Bug #57995、Bug #57996、Bug #57997、Bug #58057)。
- NULL で終了しない文字列を `UpdateXML()` または `ExtractValue()` に渡すと、サーバが表明を発行して停止する可能性があった (Bug #57279)。
- Index Merge アクセスメソッドとテンポラリファイルを使用して実行されるクエリによって、不正確な結果が返される可能性があった (Bug #56862)。
- 同一の変数を二重に割り当てた時のメモリの重複に関する Valgrind 警告が修正された (Bug #56138)。
- ストアドプロシージャでエラーが発生した場合、異なるデフォルトのデータベースにセッションが残ってしまう可能性があった (Bug #54375)。
- `TIME TO SEC()` 関数の結果によるグループ化によって、サーバがクラッシュしたり、不正確な結果が生じる可能性があった。`BLOB` を返す関数によるグループ化によって、予期しない“Duplicate entry”エラーおよび不正確な結果が生じる可能性があった (Bug #52160)。
- `SHOW` ステートメントによって使用される `find_files()` 関数によって、冗長で不必要なメモリ割り当てが行われる可能性があった (Bug #51208)。

- Windows のサンプルオプションファイルに、Linux により適した値が含まれていた (Bug #50021)。
- **RENAME TABLE** 操作が失敗した場合、**FLUSH TABLES WITH READ LOCK** が完了しない可能性があった (Bug #47924)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。